

# 尼信記念館

## 【尼信記念館のあゆみ】

尼崎信用金庫は 1921（大正 10）年 2 月中旬、松尾高一、中江済が創立を発起し、同年 5 月 5 日、有限責任尼崎信用組合として設立の許可を受け、6 月 6 日創業しました。

組合事務所は当初、尼崎市大物村田中新田 551 番地（庄下川庄下橋東詰付近、北城内 26）に置く予定でしたが、都合で尼崎市別所村 830 番地にある初代組合長小森純一所有の建物に変更、これを無償で借り受けて開業しました。当時、小森はマッチ製造業を営む実業家で、この建物は私邸の応接室であったと言われています。



開店準備のさなか、中江、松尾は小森組合長から「君たちは給料をとるのか」と聞かれ、「あなたは家賃をただにしてくださいますか。私たち二人は無給で働きますから」と言って、建物を無償で利用させてもらうことになりました。この建物が現在の尼信記念館であり、当時は現在地の約 50 メートル南に建っていました。



1930（昭和 5）年、新しい本部事務所（2 代目本店・現在の「世界の貯金箱博物館」）が建てられた後も事務所として使用しました。

1970（昭和 45）年、3 代目本店（現在の尼崎信用金庫本店別館）建築着工に伴い、約 50 メートル北へ移設することになり解体。新本店完成（1971 年 12 月）後の 1972（昭和 47）年 3 月、現在の場所に鉄筋コンクリート造りで再建しました。

尼崎の産業近代化の一翼を担った歴史的価値のあるこのレンガ造りの建造物は、1990（平成 2）年 1 月に「尼崎市都市美形成建築物」、2011（平成 23）年 3 月に「兵庫県景観形成重要建築物」の指定を受けています。

この建物が小森家の母屋の一部であったことから、解体した際にも建築時期が明らかになるような文書などは発見されていません。しかし、地元の古老の記憶などから推測すると、明治 30 年代には、すでに私邸の一部として建てられていたようです。

# 尼信記念館

## 【建造物の概要】

構 造 : 鉄筋コンクリート造 2 階建

建 築 年 : 不詳

1972 (昭和) 年 移築再建

建築面積 : 49.40 m<sup>2</sup>

延べ面積 : 83.61 m<sup>2</sup>

	外壁レンガ	移築当時のものが使われています。 ※今回の補修に合わせて、傷みが激しいものについては新しいものに取り換えました。
≪1 階≫  		
	マンツルピース	当時のものです。
	階段	当時のままの寸法です。
	窓	滑車とロープを利用した上下スライド式の窓。窓と壁の間の空洞に、窓の重さと吊り合う「おもり」があり、滑車を使って、上下に自由に開閉できます。

# 尼信記念館

《2階》



執務机といす

移築当時のものです。



飾り鏡と  
マントルピース

鏡も当時のものと伝えられています。  
外から見ると、煙突があるのが分かります。



- 創立総会決議録（複製）
- 第1回通常総会決議録（複製）

- 創立総会決議録（複製）  
1921（大正10）年5月24日
- 第1回通常総会決議録（複製）  
1922（大正11）年1月27日